
田原本町役場の 生成AI活用 「安全第一」での着実な取り組み

令和7年度 第2回 奈良県・市町村長サミット

田原本町総務部参事 越智 祥浩



導入クイズ「3時間→1時間」

ある業務で、作業にかかる時間
が大幅に短縮できました

3時間くらい → 1時間かからない

大幅な時間短縮ができた業務は
何でしょう？



限られた人員で、住民サービスを守り抜くために

人口減少・高齢化の進行

職員数に限りがある一方、業務は複雑化・高度化

議会対応・要望書・広報など「考えて書く仕事」が増加

職員を支える“道具”として生成AIの活用を検討



奈良県初のQommonsAI導入と 全職員研修

令和6年7月9日 Polimill株式会
社と連携協定を締結（奈良県内
自治体で初）

行政向け生成AIツール
「QommonsAI」を導入（社会課
題・自治体業務分野に強み）



奈良県初のQommonsAI導入と 全職員研修

令和6年8月 全職員対象の研修会を実施

基本操作、入力してはいけない情報等を説明

スタンス：

職員の代わりでなく「職員を支える共通ツール」

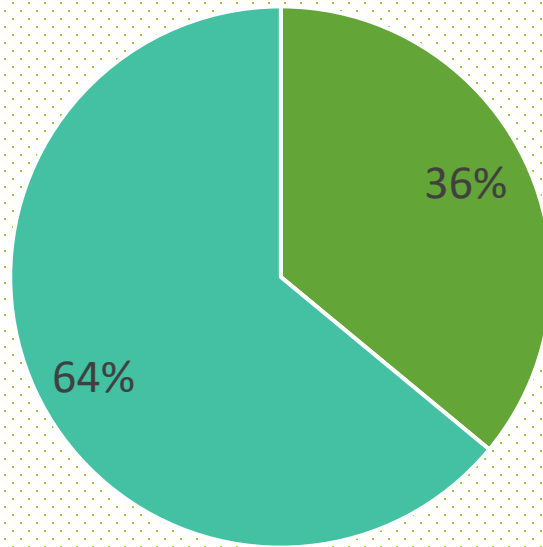
“安全第一”で、少しずつ着実に広げる

最終判断と責任は、必ず人間が持つ



すでに“3人に1人超”が 使い始めている

利用率



■ 利用した ■ 利用していない

令和7年6月の庁内調査

「生成AI利用経験あり」: 36%

一部の職員だけでなく、庁内の
約3分の1が実際に利用

ガイドラインのもと、利用者を着
実に拡大中

“負担軽減”だけでなく、“考え方の整理”にもつながる

「AIへのオーダーを丁寧にする事で、より適切な回答が得られる」

「手作業の負担を軽減してくれる」

指示内容を整理して入力することで、職員自身の論点整理・文章構成力も向上

時間の削減と、スキルの底上げの両方に寄与



AIは“よく書く”が、“正しいかどうか”は人間が見る

「順を追った説明構成でわかりやすくなるが、事実確認や、発信の可否の取捨選択に時間を要する」

文章構成は良くて、内容の正確性・妥当性は要チェック

「うのみ禁止」「必ず人が最終確認」を徹底

課題を踏まえたうえで、“安全第一”で活用範囲を拡大



議会・要望書など「考えて書く仕事」への活用

一般質問の答弁案の下書き作成

各種意見書への回答案作成

国・県への要望書作成

現状・課題・要望の整理と構成案をAIで作成

【成果】

某課の要望書の素案作成時間: 3時間／件 → 1時間／件 に短縮

素案を2～3パターン作成できる

文章の組み立てや追記をすぐ直せる

より相手に伝わる文案を選べる

議会・要望書など「考えて書く仕事」への活用

「要望書の素案作成には、3時間くらいかかっていたのが、1時間かからない感じですね。」

「しかも、文章の組み立てや、追加して入れ込みたいことをちゃちゃっと変えられるので、素案が2～3パターンを作れる。その中で、より相手に伝わる文章が選べるところは最高です。」

(実際に作成した某課職員個人の感想です)



住民・メディアへの“伝わる発信”を支える

記者発表用の記事のたたき台作成

広報誌原稿のたたき台作成

FMまほろば放送の台本作成

A4一枚程度の文章を、はがきサイズに要約

【成果】

伝えるべきことは増える一方、書く負担をAIで軽減し、「中身の確認」に注力

日常文書から企画・ネーミングまで、 “共通インフラ”として活用

日常の文書作成・校正

依頼文・通知文・挨拶文

アンケート設問案・想定問答

文書の校正（誤字脱字・表現の統一・読みやすさ）

企画・ネーミング・コンセプトづくり

公園整備のキーポイントを入力し、公園名候補を多数生成

キーポイントの関連性を踏まえたコンセプト文章案

新組織の名称アイデア出し

【成果】

「白紙から書く」負担を減らし、中身の検討に集中

0→1のアイデア出しはAI、1→10の絞り込みと決定は人間

「QommonsAI利用ガイドライン」を前提にした運用

①QommonsAI専用の利用ガイドラインを策定・周知

②主なルール

- ・個人情報を入力しない
- ・未公表の政策案は取り扱いに注意
- ・AIの出力をそのまま外部に出さず、必ず職員が確認

③リスクを抑えやすい文書・広報・企画分野から活用開始

④派手な実証よりも、日常業務で安全に使えることを重視

「文書・企画」から 「制度・計画」分野へ

①例規改正への活用(構想)

- ・類似自治体の例規の整理・比較
- ・改正条文案のたたき台作成
- ・影響整理の視点出し(補助として)

②各種計画策定への活用(構想)

- ・現状分析・課題整理のたたき台
- ・施策案のバリエーション出し
- ・わかりやすい説明文・図解案の作成

③共通方針:「たたき台」までをAI、最終判断は人

“安全第一”で、実務の中にAIを溶け込ませていく

生成AIを「職員を支える道具」として位置づけ

ガイドラインや職員研修のもと、“安全第一”で着実に活用を拡大

要望書の素案作成が 約3時間 → 1時間未満に短縮(複数案作成も可能に)するなど、職員の「一歩」を後押しする成果も見え始めた

限られた人員だからこそ、柔軟に試しながら、実務に根づかせていく取り組みを続けていく

ご清聴ありがとうございました

